

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が設定した資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、こどもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	課題発見・解決力 コミュニケーション力 挑戦する力
各学校が特色ある教育活動を推進している。活動のねらいや内容も明確となっている。今後も学校と地域がより連携し、地域人材の活用、地域貢献等、地域の教育力を活かしながら児童生徒の主体的な探究学習を推進してほしい。	○全国学力調査では、全国平均を下回っている。低学力の子どもが多く、学力定着に課題がある。 ○児童生徒は地域への愛着があり、地域の方々との交流や地域貢献活動に意欲的に取り組むことができる。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○日常生活から課題を見つけ、自身の知識・技能を活用しながら解決する。 ○他者との関わりを通して自身の意見や考えを深め、伝え合う。 ○自身の進路に展望を持ち、その実現に向けて見通しを立て自己決定する。
		中学校区として統一した取組等	○「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 ・学力調査から課題解決に向け具体的な手立てを研究し、授業を改善する。 ・自分の考えや思いを深める交流の場を作り全員参加の授業づくりを目指す。

III 自 校

ミッション	育成する力 資質・能力	課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
社会の変化に対応し、自らの進路を切り開き、豊かな人生を送ろうとする意欲の醸成	低	○身近な問題に対して疑問を持ち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割に責任を持つ力 ○自分の考えを伝える力	○学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力
学校教育目標	中	○地域や社会の問題に対して、持っている知識を関連付けて考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任を持ったり、助け合ったりする力 ○自分の考えを伝え、相手の考えを比較しながら聞く力	○学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだり難しいことにもチャレンジしたりする力
よりよく生きる生徒の育成 ～自律と尊重～	高	○様々な問題に対して、持っている知識や経験等をフル活用して考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任を持ち、共感的に聴きながらアイデアや知識を共有し深める力	○地域・社会の一員であることを自覚し、持続可能な社会に向け、主体的に学んだり困難に立ち向かったりする力
現 状	めざす子ども像	1年	○他者との関係を協動的に築くことができる。	○失敗を恐れず、困難に立ち向かう態度を養おうとしている。
＜生徒＞ ・おおむね落ち着いた学校生活を送っているが、一部の生徒が落ち着きがなく、授業に集中できていない。 ・将来の夢や目標を持っている生徒が70％である。 ・自分の意見や思いをはっきり表現できる生徒が70％である。	2年	○根拠を持って他者と協働し、課題解決に向かうことができる。	○他者との関係を協動的に築き、相手意識を持った関わりができる。	○失敗や困難から学び、自分の人生をよりよい方向へ導こうとする態度を養おうとしている。
＜授業＞ ・「授業がわかる・できる」85％、「授業で考えることはおもしろい」81％、 「授業で解決しようとする課題について、なぜだろう、やってみたいと思える生徒」74％と主体性を持たせた展開になっていない。 ・1分間スピーチによって、「自分の気持ちや意見を伝えている」72％、「友達の意見や気持ちを理解している」71％ スピーチをする意義や方法等の指導内容を検討することが必要である。 ・「毎日楽しく学校に通っている」87％、「毎日安心して学校に通っている」91％ 学校が安全で充実した生活の場となるようにしていく必要がある。	3年	○根拠を持って主体的に他者と協働し課題解決に向かうことができる。	○主体的に他者との関係を協動的に築き、相手意識を持った関わりができる。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている
	研究	テーマ	「こどもの自律を促す学びの創造」 ～あらゆる場面で、自分で考え、判断し、決定して行動できる力を育成する～	
		内容等	・授業の中で、こどもが選択できる場面を増やし、選択したものをやり切らせる指導・支援。 ・求められる資質、能力を確実に身につけ、学びに熱中する指導・支援。	
	めざす授業の姿	(1) 学びを獲得するために、こどもが自律自走する授業 (2) 資質・能力が確実に身につく教材研究・授業 (3) こども・大人が熱中する授業		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目 標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70以上 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70以上 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	主体的・対話 的で深い学 びを通した、 学力の定着	★	継 続	主体的に学 びに向かい、粘り強 く学び続ける授業づく り	・資質能力が確実に 身につく教材研究・授 業づくりを行う。⇒学 習指導要領で求めら れる「ものの見方・考 え方」を働かせた授業 を設計し実践する。 ・こどもと大人が熱 中する授業づくりを 行う。⇒無我夢中にな るための条件をクリ アした授業を設計。	・「授業内容はよくわか るか」90%以上 ・「教科は好きか」80% 以上 ・「授業内容をさらに深 めたいか」80%以上 ・各種調査の市平均以 上(全国学力学習状況調 査、福山市学力学習状況 調査、実力テスト)	「授業内容はよく わかるか」80% 「教科は好きか」 73%「授業内容を さらに深めたいか」 72% ・全国学力は全て 市を超えた。国 52 (市 52)数 46(市 45)理 492(市 475～482)	3	2	正答率40%未満の生徒 は、学力定着指導を丁寧 に行った結果、減少した。 「ものの見方や考え方」を 再度見直す研修を行い、必 要な力を身につける授業を 展開する。	□肯定的評価・「授業内 容はよくわかるか」8 3%「教科は好きか」 75%「授業内容をさら に深めたいか」73% 福山市学力定着学習状 況調査は、5教科すべて に課題があった。 ◎帯タイム等成果のある 教育活動を実施する ことができた。	3	2	3	帯学習を1か月単位 で仕組み、国語・数 学・英語に特化した 基礎基本的な学力の 定着を継続する。また、 定着に課題のある 生徒を、放課後な どを活用して、学習 支援する。また、難易 度の高い問題に挑戦 したい生徒への支援 も同時に検討する。
3	生徒がい いきと学べ る学校づく り		継 続	一人ひとり とりが認め られ、満たさ れる集団づ くりの推進	・生徒間で肯定的評 価を行わせる。 ・生徒会や生徒が主 体的に活動できる場 を設定する。 ・不登校生徒等への 確実な会議の実施し 相談体制を構築する。 ・細やかな家庭連携 を行う。	・「学級内では、お互い の考えや意見が認めら れていると思う」90% 以上 ・「安心して駅家中 学校へ通っている」生 徒 90% ・不登校生徒の割合全 国平均以下	・「自分の良さ」は 周りから認められて いる 76% 「毎日 安心して」学校へ 通っている 88% ・9月末現在、不登 校生徒の割合は約 2%だが、2学期に 入り、欠席が多くな った生徒も増えた。	3	2	・生徒指導の4機能を踏 まえた生徒主体の活動 を仕組む。(ボランティア活動・生 徒会選挙等) ・教職員は生徒の実態を把 握し、連携して生徒へ指導支 援を行う。 ・欠席者を中心に生徒の実 態に応じて定期的に家庭訪 問をする。	□「自分の良さ」は周 りから認められてい る 75% 「毎日安心して」学 校へ通っている 88%不登校生徒の 割合5%。 ◎ボランティア活動 等計画通りに教育活 動が進まなかったこ とがあった。	2	2	2	先を見通して計画 を練り、早めに生徒へ周知 する必要がある。合わせ て「何を考えさせるか」 を教職員が共通して持 つておく。 安心安全な学校づく りについて生徒一人ひ とりが自分ごととして 考え行動化できるよう、 実際の場面(SNS動画 拡散等)を取り上げ、学 校全体で取り組む。
3	保護者・地域 に信頼され る学校づく り		継 続	地域・保護 者が満足で きる学校	・家庭との連携を迅速 に丁寧に行う。 ・HPややすぐーを 活用し効果的な情報 発信を行う	・「安心して通わせて いる」保護者 90% ・「学校の様子がよく わかる」80%以上	安心して通わせて いる89.5%学校の 様子がよくわかる 84.7%数値として はよいが、学年間で 差が大きい。	3	3	引き続き、家庭との連携を密に行 う。必要な情報について、タイ ムリーな発信を行うとともに、保護 者の要望をPTA理事会で聞く。	□安心して通わせて いる 85%学校の様 子がよくわかる 76%。◎数値が下 がっている。学年間 の差が大きい。	2	2	2	10月の改善方を継続 するとともに、次年度 に向け、電話連絡や家庭 訪問等を強化する。通信 は生徒の様子や言葉が 多くあるものにする。
3	教職員が元 気で、生徒に向 き合える学校 づくり		継 続	業務改善と 働く環境を 整え、成果 へ結びつけ る	・業務を精選し、本質 的に大切に部分を明確 にし、全職員で共通認識 を持つ。 ・風通しのよい職場風 土を形成し、よりよい連携、 効率的な仕事の進め方 を行う。	・「仕事にやりがいを感じ ている」100% ・「困ったときに相談で きる人がある」100%	仕事のやりがいを感じ ている 85%、困った ときに相談できる人が いる 80%であった。 風通しのよい職場風土 から協働して学校行事 の取組を進め、生徒指 導対応を行うなど、一定 の成果はでている。	3	2	個々の心情や抱えている業務 について職員間で共有し、 柔軟に仕事の在り方を見直 しながら教育活動を進めて いく。職員が主体的に業務に 取り組む姿勢をお互いに認 め合う仕組みを作る。	□仕事のやりがいを感じ ている 90%、困ったと きに相談できる人がある 89%。 ◎100%には届かなか ったが、アンケートを 実施するたびに数値が上 がっており一定の成果がで ている。	3	3	3	お互いの業務につ いて、認め合い、協働する 姿が多く見られる。この マインドを継続すると ともに次年度は協働し て物事に取り組むス テム作りを進める。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。